

事業所名

ラグフル香椎Ⅱ

支援プログラム

作成日

R7 年 3 月 1 日

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|---|----------|---|----------|-----|----------|---|----------|-----|--|---------------|----|
| 法人（事業所）理念 | | ・安心・安全に過ごすことが出来る場所を提供する ・こどもが楽しく過ごすことが出来る場を提供する ・子どもを褒めることによって子どもの力を伸ばす | | | | | | | | | | | |
| 支援方針 | | ・遊びを通して様々な学びにつなげる ・自分の実際の体験を通して自ら学ぶことが出来る力を育む | | | | | | | | | | | |
| 営業時間 | | 平日 休日 | 15 10 | 時 | 30 00 | 分から | 17 16 | 時 | 30 00 | 分まで | 送迎実施の有無 | <div>あり</div> | なし |
| | | 支 援 内 容 | | | | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | ・安心・安全に過ごすことが出来るように子どもの過ごす環境を整える ・自分の身の周りのことを自分自身で行うことが出来るよう、基本的生活習慣を身につけられるような支援を行う | | | | | | | | | | | |
| | 運動・感覚 | ・日常生活を営むために必要な姿勢の獲得や粗大・微細運動機能の獲得を図ることが出来るような運動の機会を提供する ・個々の有する感覚（視覚・聴覚・触覚など）を活用することによって、生活に必要な運動機能の向上を図ることが出来るような機会を提供する ・個々の感覚の特性（過敏や鈍麻などの感覚の偏り）へ配慮し、本人自身が自分の感覚の特性と向き合えるよう配慮する | | | | | | | | | | | |
| | 認知・行動 | ・自分の身の回りの物事（情報）を正しく理解することが出来るような機会や関わりへの支援を行う ・受け取った情報を整理し、その場に必要な行動を選択することが出来るような機会を提供する ・自身の認知の特性を理解することが出来るように自己理解を促す | | | | | | | | | | | |
| | 言語 コミュニケーション | ・ことばや身振りなどを通して、自分の表現したい事を伝えることが出来るよう促しを行う ・その場に必要な表現方法を身につけることが出来るような機会の提供を行う ・自分自身の考えを伝えることや、相手の意見を聞くことで、人との相互作用によるコミュニケーションを身につける支援を行う | | | | | | | | | | | |
| | 人間関係 社会性 | ・スタッフやお友達との関わりの中で他者との関係の育み方を身につけることが出来るよう促しを行う ・自分自身の得意なことや苦手なことを理解することによって、自分自身をコントロールする力を身につけることが出来るような機会を提供する ・事業所内外の活動を含めた様々な活動への参加を促すことによって、参加する方法を身につけることができるよう支援を行う | | | | | | | | | | | |
| 家族支援 | | ・保護者の方の困り感に寄り添い、いつでも相談を受ける体制を整える ・お子さんに必要な支援について、保護者と一対一の対話を大切にする ・また、きょうだい児を含めた家族支援を心掛ける | | | | | | | 移行支援 | | ・中学校や高校への進学、また就労にスムーズに移行できるよう、保護者の方と相談しながら、保護者の方へ移行先の情報提供を行ったり、移行先へ必要な配慮などの支援について説明したりする | | |
| 地域支援・地域連携 | | ・地域の資源に関する情報を収集し、必要に応じてご家族へ提供する ・児童の特性に応じて、必要な地域資源を活用する | | | | | | | 職員の質の向上 | | ・全体に向けて、毎月動画を活用しながら研修を行う ・専門的支援を行う従業員に向けて、療育に関する研修を行う | | |
| 主な行事等 | | ・お正月遊び ・豆まき ・ひな祭り ・こどもの日 ・七夕 ・夏祭り ・水遊び ・敬老の日 ・社会体験 ・買い物体験 ・紅葉狩り ・クリスマス ・ハロウィン ・避難訓練 など | | | | | | | | | | | |
| 事業所の特性 | | ラグビー（タグラグビー）を中心とした運動プログラムを組み立てており、身体を動かすことによって協調性や集中力を育むことが出来るよう支援を行っている。 | | | | | | | | | | | |

事業所名

ラグフル今宿

支援プログラム

作成日

R7

年

12 月

1

日

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|---|----------|---|----------|-----|----------|---------|----------|--|---------|------------------|
| 法人（事業所）理念 | | ・安心・安全に過ごすことが出来る場所を提供する ・こどもが楽しく過ごすことが出来る場を提供する ・子どもを褒めることによって子どもの力を伸ばす | | | | | | | | | | |
| 支援方針 | | ・遊びを通して様々な学びにつなげる ・自分の実際の体験を通して自ら学ぶことが出来る力を育む | | | | | | | | | | |
| 営業時間 | | 平日 休日 | 15 10 | 時 | 30 00 | 分から | 17 16 | 時 | 30 00 | 分まで | 送迎実施の有無 | <div>あり</div> なし |
| | | 支 援 内 容 | | | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | ・安心・安全に過ごすことが出来るように子どもの過ごす環境を整える ・自分の身の周りのことを自分自身で行うことが出来るよう、基本的生活習慣を身につけられるような支援を行う | | | | | | | | | | |
| | 運動・感覚 | ・日常生活を営むために必要な姿勢の獲得や粗大・微細運動機能の獲得を図ることが出来るような運動の機会を提供する ・個々の有する感覚（視覚・聴覚・触覚など）を活用することによって、生活に必要な運動機能の向上を図ることが出来るような機会を提供する ・個々の感覚の特性（過敏や鈍麻などの感覚の偏り）へ配慮し、本人自身が自分の感覚の特性と向き合えるよう配慮する | | | | | | | | | | |
| | 認知・行動 | ・自分の身の回りの物事（情報）を正しく理解することが出来るような機会や関わりへの支援を行う ・受け取った情報を整理し、その場に必要な行動を選択することが出来るような機会を提供する ・自身の認知の特性を理解することが出来るように自己理解を促す | | | | | | | | | | |
| | 言語 コミュニケーション | ・ことばや身振りなどを通して、自分の表現したい事を伝えることが出来るよう促しを行う ・その場に必要な表現方法を身につけることが出来るような機会の提供を行う ・自分自身の考えを伝えることや、相手の意見を聞くことで、人との相互作用によるコミュニケーションを身につける支援を行う | | | | | | | | | | |
| | 人間関係 社会性 | ・スタッフやお友達との関わりの中で他者との関係の育み方を身につけることが出来るよう促しを行う ・自分自身の得意なことや苦手なことを理解することによって、自分自身をコントロールする力を身につけることが出来るような機会を提供する ・事業所内外の活動を含めた様々な活動への参加を促すことによって、参加する方法を身につけることができるよう支援を行う | | | | | | | | | | |
| 家族支援 | | ・保護者の方の困り感に寄り添い、いつでも相談を受ける体制を整える ・お子さんに必要な支援について、保護者と一対一の対話を大切にする ・また、きょうだい児を含めた家族支援を心掛ける | | | | | | 移行支援 | | ・中学校や高校への進学、また就労にスムーズに移行できるよう、保護者の方と相談しながら、保護者の方へ移行先の情報提供を行ったり、移行先へ必要な配慮などの支援について説明したりする | | |
| 地域支援・地域連携 | | ・地域の資源に関する情報を収集し、必要に応じてご家族へ提供する ・児童の特性に応じて、必要な地域資源を活用する | | | | | | 職員の質の向上 | | ・全体に向けて、毎月動画を活用しながら研修を行う ・専門的支援を行う従業員に向けて、療育に関する研修を行う | | |
| 主な行事等 | | ・お正月遊び ・豆まき ・ひな祭り ・こどもの日 ・七夕 ・夏祭り ・水遊び ・敬老の日 ・社会体験 ・買い物体験 ・紅葉狩り ・クリスマス ・ハロウィン ・避難訓練 など | | | | | | | | | | |
| 事業所の特性 | | ラグビー（タグラグビー）を中心とした運動プログラムを組み立てており、身体を動かすことによって協調性や集中力を育むことが出来るよう支援を行っている。 | | | | | | | | | | |